



近畿支部だより

近畿支部・中国・四国支部見学会

「平成 30 年度放射線フィールド測定調査会」印象記

島崎 達也

2018 年 11 月 23 日、近畿支部と中国・四国支部による合同見学会「平成 30 年度放射線フィールド測定調査会」が開催された。本会は、京都祇園という日本でも有数の観光地を対象に参加者が持参した線量計で環境放射線レベルを調査する、おそらく見学会としては初めてのユニークな試みに魅かれて参加させていただいた。

当日は、時々日差しがさす曇り空でしたが、紅葉深まる古都を線量計片手に散策するには最適な天候でした。集合は、京阪電鉄祇園四条駅に 13 時半でしたが、定刻前に全員勢ぞろいし、それぞれが線量計を首から下げたスタンバイ状態でした。参加者は、近畿支部 11 名、中国・四国支部 2 名、九州支部 1 名の 14 名でした。

定刻より早い 13 時 15 分ごろより近畿支部角山雄一支部長の「開会の挨拶」があり、(1) 身近にある環境放射線は周辺環境に応じて大きく変わること、(2) 神社の鳥居の近くでは高くなったり、(3) ビルのエレベータの中では低くなったりと色んな顔を見せてくれる (4) 千年の都・京都を散策しながら放射線同好の士と一緒に環境放射線を測り歩いてみましょうという話を頂きました。また、貸し出しを希望された方への線量計の使用方法、放射線測定フィールド調査会ウォーキングマップ (図 1) を用いた散策場所や測定手順、休憩場所、逸れた場合の連絡方法等の説明がありました。確かに混雑する観光地での集団行動の難しさ等初めて経験することで、その対応にも興味がありました。参加者の線量計は、5 種類 (エアカウンター S (エスター)、Radi PA-1000 (HORIBA)、Radi PA-1100 (HORIBA)、MyRate PDR-111 (日立アロカメディカル、現日立)、TERRA MKS-05 (ECOTEST)) で、貸し出し線量計はスマートフォン対応線量計ギョロガイガー II (ギョロマン) が準備されていました。記録は測定値を iPhone に示す機種や GPS 位置情報と共に自動

で保存するものがあり、福島原発事故以降の技術進歩に驚かされました。

13 時半過ぎに、集合場所から四条通に出て京都四条南座の前を東に進みました。予想どおりの大混雑の中、近畿支部委員の方が掲げる「放射線フィールド測定調査会」の旗 (写真 2 左下) を目印に調査を開始しました。勿論、線量計を気にしながら人込みをかき分けながら歩いて行くと、程なく第①測定地点の「寿福山仲源寺」に到着し、早速、測定を開始しました。仲源寺はにぎやかな祇園の中心にあり「目やみ地蔵」が安置されているお寺で、門前にある「目やみ地蔵」石碑 (写真 1 左上) に線量計を向けていました。お寺に参拝されている方々からすると、お参りもせず何か変な機械を石碑に向けている筆者らをどのように思われていたかは定かではありません。

次は第②測定地点の「花見小路通」に向かいました。祇園の中心を通るメインストリートで花崗岩で石畳が整備されており、放射線が高いに違いないという気持ちで測定を開始しました。案の定、 $0.42 \mu\text{Sv/h}$ という高い値が観測され、何で? という参加者の探求心に、暫し、通行人の注目を集める輪ができることになりました (写真 1 右上)。参加者は、それぞれの線量計を石畳の上 (写真 1 左下) に並べ、どのくらいの値が出ている? なぜ? γ 線スペクトロメータは持ってこなかったの? などなど…、議論が始まっていました。この通りを通過するのに少し時間を要することになりました。

第③測定地点は、臨済宗建仁寺派大本山「建仁寺」でした。山門前の石碑は $0.14 \mu\text{Sv/h}$ と高い値でした (写真 1 右下)。境内も $0.13 \mu\text{Sv/h}$ 前後と花崗岩の石畳や玉砂利による影響が見られました。建仁寺を出て八坂通を東に進み、東山のシンボルの五重塔「八坂の塔」を目指して進みました。「八坂の塔」辺りは観光客であふれ、参加者を見失わないように、

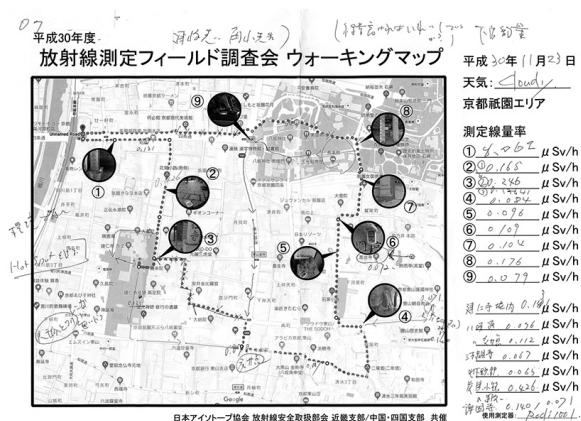


図1 配布された「ウォーキングマップ」と記入例



写真1 仲源寺→花見小路→建仁寺

調査会の旗を更に高々と掲げ、人数確認をしながら進みました。第④測定地点は、京都霊山護国神社入口の狛犬でした。石像としては $0.084 \mu\text{Sv/h}$ と低い値で、材質の違いと思われました。ここで角山支部長の提案で坂本龍馬や高杉晋作が眠る旧霊山官修墳墓で測定しようということになり、予定になかった神社境内への急坂を上ることになりました。入口の護国神社石碑は $0.20 \mu\text{Sv/h}$ と高い値(写真2左上)でしたが、目的の墳墓はそれほど高くなかったために、全員で墳墓に上ることなく坂を下ることになりました。その途中の下り坂から一望できた京都市内の景色が印象的でした。調査会も2時間が経過し、高台寺公園で暫しの休憩となり差し入れの岡山名物吉備団子をいただきました。

その後、ねねの道を北に進み、第⑤、⑥測定地点の石碑付近を測定しました(写真2右上)。新選組に関係した御陵衛士屯所跡の門前にある布袋像、石



写真2 護国神社→ねねの道→長楽館

碑、石畳等花崗岩がふんだんに使われている印象でした。第⑦測定地点は、長楽館でした。ここは、明治中期「煙草王」といわれた村井吉兵衛の迎賓館であり、現在、京都市指定有形文化財ですがカフェやレストランとして利用されているものです。特に、入口の門柱や石畳が花崗岩でできおり、 $0.18 \mu\text{Sv/h}$ と高い値でした(写真2左下)。

最後の測定地点は八坂神社楼門の1か所でしたが、配布されたそれぞれの「ウォーキングマップ」の記録欄もすべてが埋まり調査は十分にできたので、ここで終了としましょうと角山支部長の提案で、無事終了することになりました(写真2右下)。約3時間の調査で $0.062\text{--}0.42 \mu\text{Sv/h}$ と約6倍もの環境放射線レベルの違いを確認することができました。それぞれの値は、測定した場所の状況による結果であり、その理由として、京都祇園が花崗岩等の石材を用いた構造物、石畳や石碑等が多いことに関連していました。これらの結果は、今後の放射線教育に生かすことができると思います。また、初めての試みである参加型見学会は、環境放射線レベルの理解を深めることができたことで成功であったと思います。今後は更に発展させ「放射線教育人材育成」コースとして開催することができると考えました。

最後に、本会を開催された近畿支部角山支部長、中国・四国支部花房支部長はじめ、各支部委員の皆様にご心よりお礼申し上げます。放射線同好の士として、一時の楽しい時間をありがとうございました。

(熊本大学生命資源研究・支援センター)